

資料 1

日本語を母語としない市民のニーズの把握に努め、関係部署や地域で活動する団体等と連携して、多文化サービスの取組を進めます		図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策		
基本方針	2 すべての市民に活用されるために	
施策の方向性	（1）誰もが学べる環境の整備を進めます	
取組項目	② 多文化理解のためのサービスの実施	
取組内容アイ	日本語を母語としない市民が利用しやすい図書館を目指して、全国の公立図書館の取組事例を調査・研究し、効果的な利用につながる取組を進めます。 日本語を母語としない市民へ外国語（英語、中国語、韓国語など）によるおはなし会を継続して開催します。	
具体的な取組 （令和6年度）	<ol style="list-style-type: none"> 1 先進自治体の視察を行う 2 いろいろなことばでたのしむおはなし会の継続実施（年4回程度） 3 関連講座及び展示の実施 4 市内の日本語ボランティア教室へアンケートを行う 	
事業評価に係る参考指標等		
【ニーズの把握・先進事例の視察予定】		
<p>5月 視察先検討 アンケート 内容検討</p> <p>9月 アンケート 依頼</p> <p>10月 視察実施</p> <p>11月 視察結果 分析</p> <p>3月 アンケート分 析・報告</p>		
【目的・期待される成果】 現状把握と目標の設定 多言語・多文化をテーマとして、図書館を広く利用してもらうこと		
取組結果と評価	評価：A	
<ol style="list-style-type: none"> 1 多文化サービスにおける先進事例として、埼玉県立熊谷図書館を視察した。同館の取組のうち、本市でも実施可能なものとして、以下の取組を進める。 （1）各国を母語で紹介するパンフレットや冊子のコーナー →市内在住外国籍市民主要5か国の大使館へ各国を紹介する資料の寄贈を依頼 		

(2) 多言語による日本での生活案内情報コーナー

→西東京市内で配付されている各種多言語案内資料の確認、収集

2 多言語おはなし会

3 回実施 4 言語 参加者：51 人（親子含む）

3 関連講座及び展示の実施

(1) 多文化講座

イベント2回実施 参加者：延べ43人。

御朱印帳ワークショップやセンペノのような文化体験型のイベントについて、参加者からは御朱印帳というものの勉強になった、普段あまり意識しないモンゴル文化に触れる貴重な機会になった、など概ね好評を得た。

御朱印帳ワークショップは海外出身の方も対象として実施したが、参加者は全員日本人だった。申し込みフォームにやさしい日本語を活用するなどの工夫が必要だった。

(2) 多文化理解のための企画展示

谷戸図書館と芝久保図書館で各1回、2回実施、利用者の多文化への関心を得た。

4 市内日本語ボランティア教室へのアンケート(Logo フォーム)

内容：活動状況やさしい日本語による案内の必要性、自由回答で図書館への希望)

11 団体中7 団体から回答

やさしい日本語による利用案内・動画・HP が必要との回答が8割を超えた。自由回答では多様な言語の資料を希望する意見が複数寄せられた。

図書館員を対象に、動画「やさしい日本語を図書館で活用する」視聴研修を行った。

図書館協議会評価

評価：○

市民の自主的な学びを支援するための講演会・講座、展示等を実施し、市民の調査・研究を支援します	図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策	
基本方針	2 すべての市民に活用されるために
施策の方向性	（2）市民の生活課題、地域課題に向けた取り組みを進めます
取組項目	② 学習機会を提供するための講演会・講座の実施
取組内容ア	市民の自主的な学びを支援するための講演会・講座を継続して実施し、市民の調査・研究を支援します。
具体的な取組 （令和6年度）	1 データベース普及のためのイベントを開催します。 2 成人を対象とした、図書館の資料や情報を活用するための講演会を開催します。
事業評価に係る参考指標等	
<p>【目的・期待される成果】 市民の自主的な学びを支援するための場を提供する 参加者にアンケートを実施。「学びの支援に繋がった」と取れる項目にてその満足度を 確認する。</p>	
取組結果と評価	評価：A
<p>1 データベース普及のためのイベント イベント名：夏休み自由研究応援企画『誕生日新聞』 日付・場所：令和6年8月7日、14日、21日（水）中央図書館 対象：小学生 参加人数：51名 評価：「また調べものをするときに、図書館データベースをつかいたい」という項目に90%が「つかいたい」と回答 自由記述欄では「またこのデータを使って、調べものをしてみたいと思った」「学校で</p>	

使ったときにもたん生日の新聞を調べたけど、その時には見られなかったおもしろい記事があっておもしろかった」などの意見があった。

また、92%がこのイベントを通してデータベースを初めて利用しており、今後のデータベースを利用した学びのきっかけとなった。

2 成人を対象とした、図書館の資料や情報を活用するための講演会

講演会名：「すいせい」と「かがく」のアツイ話

講師：鈴木雄大氏（JAXA 宇宙科学研究所 博士研究員）

日付・場所：令和6年11月17日（日）田無公民館ならびにオンライン配信

対象：一般

参加人数：会場21名、オンライン12名。年齢層は50代以上が7割だったが、親子参加が2組、中学生の参加もあった。

評価：「参加してみて「すいせい」や「かがく」に関する認識が変わったか」という項目に100%が「はい」と回答

図書館の資料や情報を活用してもらうために、講演内容に関連した図書館資料のリストを作成し、当日配布ならびに図書館ホームページへの掲載を行った。自由記入欄では「宇宙について考えさせられた、星空を眺めるのが楽しくなりそう」「『すいせい』にはまだ謎が多いことを知ることができ、勉強になった」などの意見があった。第一線で活躍する研究者の話は、普段身近に感じにくい宇宙や科学への興味、関心を高めるきっかけとなった。

図書館協議会評価

評価：○

通常の資料で読書が困難な方へ大活字本、点字図書、デージー図書等の様々な形態の資料の提供を維持し、利用拡大に努めます	図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策	
基本方針	2 すべての市民に活用されるために
施策の方向性	（1）誰もが学べる環境の整備を進めます
取組項目	① 図書館利用が困難な市民に向けたサービスの実施
取組内容ア	「読書バリアフリー法」施行に伴い、大活字本、点字図書、デージー図書、マルチメディアデージー図書などの提供を継続して、障害の有無に関わらず、すべての市民が読書することができる環境整備に取り組めます。
具体的な取組 （令和6年度）	ハンディキャップサービスの書架を整備し、図書館利用が困難な人や支援する人なども含め、広く一般の方へハンディキャップサービスについて普及を進める。
事業評価に係る参考指標等	
<div style="text-align: center;"> </div> <p>【目的・期待される成果】</p> <p>LLブックや点字つき絵本など、普段別々の書架に配置されているハンディキャップサービス関連の資料を新設コーナーにまとめ、中央、谷戸、ひばりが丘の3館に設置することで、認知度を高める。</p>	
評価	評価：B
<p>・令和元年6月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が施行されたことで、ハンディキャップサービスに関する資料がより世間に知られるようになった。視覚障害等により活字を読むのが難しい人や図書館に来館することが難しい人でも読書を楽しみ情報を得られるような「読書バリアフリー」の取組について、その対象者だけでなく一般の方に周知するコーナーとして、「いろいろな読書コーナ</p>	

ー」を作った。具体的には、大活字本コーナーにある大活字本の1部、児童コーナーにあるLLブックや点字つき絵本の1部、谷戸図書館のみ所蔵の点字本などをまとめて、そのコーナーに資料を揃えた。

・視覚障害の対象にハンディキャップサービス向け利用案内としては、ホームページや印刷物では、活字（文字情報）のみの広報物であったが、一般向けにわかりやすいように、写真やイラスト入りで宅配サービスの提供やデイジーの貸出に関する内容を掲載したポスターを作成し、新設コーナー近くに掲示した。

・令和6年度は、中央、谷戸図書館の新設コーナーの設置を12月に予定していたが、実際の設置は2月から3月となった。また、ひばりが丘図書館では、従前の原爆小文庫が設置されていたコーナーを活用し、資料を設置したものの、そのコーナー設置に関する周知が遅れてしまったので、令和7年度は広く一般の方にもサービスを知ってもらうように広報の方法や仕方を工夫する必要がある。

図書館協議会評価

評価：○

地域に関する講演会を実施し、地域に親しみを持つ機会を創出します		図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策		
基本方針	3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承するために	
施策の方向性	（2）西東京市に関する資料と情報を活用し発信します	
取組項目	② 西東京市に縁（ゆかり）のある人物情報の収集と活用	
取組内容イ	縁（ゆかり）のある人物が講師の時、または縁（ゆかり）のある人物がテーマの講座・講演会等を開催する際には、当該人物の著作や情報等を積極的に発信します。	
具体的な取組 （令和6年度）	市内に関することをテーマとした講演会や、縁の人物を講師に招いた講座を実施します。講演後、内容をまとめたものを図書館ホームページに掲載し、市内の歴史や地理の情報発信に努めます。	
事業評価に係る参考指標等		
<p>8月 講演会実施</p> <p>11月から12月 講演会実施</p> <p>10月から11月 講演会後の積極的な情報発信</p> <p>令和7年3月 講演会後の積極的な情報発信</p>		
<p>【目的・期待される成果】</p> <p>市民の自主的な学びを支援するための場を提供する</p> <p>参加者にアンケートを実施。「学びの支援に繋がった」と取れる項目にてその満足度を確認する。</p>		
取組結果と評価	評価：A	
<p>1 講演会</p> <p>（1）「刀・鉄砲と農民たちの幕末－150年前の田無・保谷－」</p> <p>講師：行田健晃氏（成蹊中学・高等学校専任教諭、西東京市文化財保護審議会委員）</p> <p>日付・場所：令和6年8月18日（日）谷戸公民館</p> <p>対象：小学4年生以上（子ども向けだが、大人の参加も可）</p> <p>参加人数：小学生5名を含む26名 アンケート回収：25名</p> <p>（2）「地形と地図を読む－ハザードマップへの応用－」</p>		

講師：原芳生氏（大正大学名誉教授、田無市史編纂調査員）

日付・場所：令和6年12月14日（土）田無公民館

対象：一般

参加者：45名 アンケート回収：42名

開催にあたり、問い合わせや申し込みが多く、地域の歴史や地理情報への関心が高いことがうかがえた。終了後に講師へ質問をしている親子連れの方や、地域・行政資料室を訪れ地図を確認しに来た方も居り、興味を持ったことを図書館で実際に調べるといふきっかけとなった。

アンケート結果については、前述（1）の講演会では「西東京市についてたくさん学べたか」「今後調べものときに図書館を使うか」という項目について、どちらも肯定的な意見が9割近くを占めた。どちらの講演会でも、自由記述欄では「新しいことを知ることが出来、勉強になった」「実際に市内を歩いて確かめてみたい」「長年住んでいる土地について知ることが出来た」などの意見があり、参加者の積極的な学びに繋がったと考えられる。

講演会終了後には、講演会を撮影し編集した動画や、講演会内容を講師自ら再編成した原稿をインターネット上へ掲載した。講演会後のフォローアップ並びに、今後の地域資料へアクセスする際の入口となるコンテンツに成り得たと捉えている。

2 動画

「刀・鉄砲と農民たちの幕末—150年前の田無・保谷—」（前編）（後編）

掲載場所：西東京市動画チャンネル（YouTube）

掲載日：令和6年12月18日（水）

閲覧数：前後編合わせて430回再生（令和7年5月15日現在）

3 原稿

「続・西東京市の自然地理」—地形と地図を見ながらハザードマップの利用について考える—

掲載場所：図書館ホームページ

掲載日：令和7年3月19日（水）

閲覧数：142回（掲載日～令和7年4月現在）

図書館協議会評価

評価：○

武蔵野大学との協力事業を推進します		図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策		
基本方針	5 地域との協働、行政との連携を構築・向上するために	
施策の方向性	（1）地域で活動する市民、団体の活動を支援します	
取組項目	② 武蔵野大学との連携・協働	
取組内容アイ	武蔵野大学との相互利用を継続します。また、大学からの依頼による図書館職員の講師派遣を継続します。 武蔵野大学と連携・協力して、武蔵野大学の学生が図書館の事業に企画段階から参加し、体験できるように取り組みます。	
具体的な取組 （令和6年度）	文学部の学務担当教授と調整を行い、実施事業を決定、実施する。 大学からの要請に基づいて図書館司書の派遣を行う。	
事業評価に係る参考指標等		
<p>5月 担当教授と調整</p> <p>6月 展示準備</p> <p>7月から8月 展示</p> <p>11月 大学講義へ図書館司書の派遣</p>		
<p>【目的・期待される成果】</p> <p>連携・協働により、図書館サービスの質を高める</p> <p>事業への取り組みを大学（学生）主導で進める。担当教授と調整のうえ、大学の前期に展示を実施する。</p> <p>後期には、大学に司書を派遣し、講師として学生への指導を行う。</p>		
取組結果と評価	評価：A	
<p>1 展示</p> <p>前期では7月20日（土曜日）から8月31日（土曜日）まで、中央図書館で企画展示「大学生が選ぶ心にのこる一冊」を実施した。</p> <p>展示に際しては文学部日本文学文化学科3年生16名の学生たちが「あの頃を思い出す本」「記憶の初めにある本」「繰り返し読みたくなる本」という3つのテーマを提案し、そ</p>		

のテーマに沿って選書をし、選んだ本にまつわるエピソードを添えた。展示資料冊数は59冊、貸出回数は53回だった。

館内ポスターを見て展示場所を聞いてきた利用者がいたことから、「学生による展示」への興味・関心がうかがえた。また、若い女性や主婦とみられる利用者が展示本を手にする姿や、学生たちの選書理由をじっくり読む利用者の姿が見られた。学生が選者となることで、普段自分では選ばないような本に手を伸ばすきっかけづくりができた。

2 司書派遣

後期には、11月27日（水曜日）1時限に武蔵野キャンパス1号館1102教室にて行われた「入門ゼミB 9回目 特別授業(図書館司書講座)」の講師を司書職員が務めた。

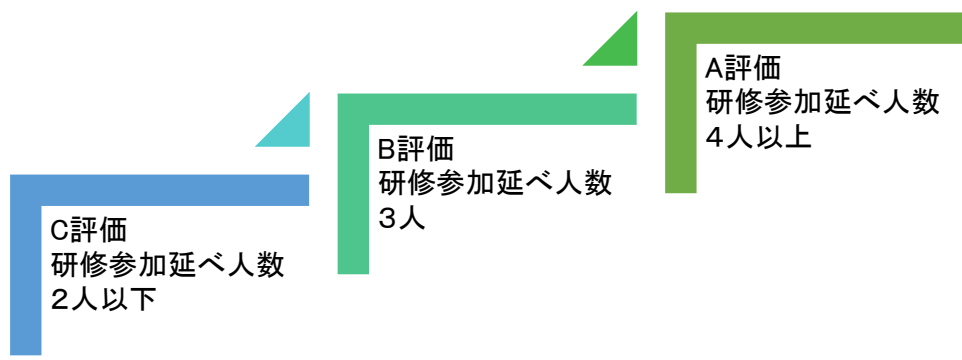
担当教授からの提案で、受講生である文学部日本文学文化学科1年次学生約200名から「公共図書館や司書という仕事について、実際に働いている司書に聞いてみたいこと」を事前アンケートで募り、できる限り学生の質問に沿った講義を行った。質問は労働環境や給与、選書などの具体的な仕事内容、「司書になるにはどうしたらよいか」といったものまで多岐にわたった。講義の合間には、学生に向けて司書や図書館に関連する本の紹介も行った。

授業の内容や感想は「武蔵野大学文学部日本文学文化学科」のnoteにまとめられ、インターネット上で公開されている。

https://note.com/mu_nichibun/n/nab601f268d9a

図書館協議会評価

評価：○

都立図書館等が主催する専門研修、庁内研修への参加や図書館内での指導・研修等を通して、職員全体で知識や技術、情報を共有し、市民サービス向上につながるよう努めます	図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策	
基本方針	6 図書館サービスの基盤を維持するために
施策の方向性	（1）職員の専門性の向上を目指します
取組項目	② 司書職員の専門性の向上を目指す取組
取組内容ア	職員が専門研修へ参加して得た知識などを職員全体で共有する取組により、図書館組織全体で職員の専門性を高め、育成することで、図書館サービスの向上に努めます。
具体的な取組 （令和6年度）	外部の図書館専門研修や、サービスの向上につながる講座などに職員の1割に当たる3人以上が1回以上参加し、職場に還元する。
事業評価に係る参考指標等	
<div style="text-align: center;">  </div> <p>【目的・期待される成果】</p> <p>図書館全体で職員の専門性を高め、育成することで、図書館サービスの質を高める。</p> <p>外部の図書館専門研修や、サービスの向上につながる講座などに職員の1割に当たる3人以上が1回以上参加し、学んだことを職場に還元する。</p>	
取組結果と評価	評価：A
<p>国立国会図書館、都立多摩図書館、東京都つながり創生財団などが開催している参加型、オンライン形式、オンデマンド配信形式の図書館員向け研修に延べ20名が参加した。</p> <p>レファレンスサービスや、やさしい日本語に関する館内研修として、国立国会図書館等が提供する研修動画による研修を実施した。</p>	

図書館協議会評価

評価：○